



SWIFT News

Vol.5 July 2022

ご挨拶



SWIFT東アジア代表
アラン・デルフォッセ

日本のSWIFTコミュニティの皆様には平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

この2年間は、パンデミックや地政学上の緊張の高まりによって、世界は前例のない変化に直面することとなりました。このような時代において、SWIFTと金融業界はさまざまな対応をし、レジリエンスとイノベーション、適応能力を繰り返し証明してきました。本ニュースレターでは、これまでの取り組みに関する最新情報をお届けいたします。

SWIFTのビジョンである「世界中のどこからでもインスタント且つ摩擦のない送金と証券取引の実現」に関して、2021年には革新的なサービスであるSWIFT GoやPre-validation(事前検証)の提供を開始しました。今回は、これら2つのサービスに関する最新情報をご紹介しますとともに、日本市場向けに準備された事前検証サービスに対応する概念実証についてご案内します。

2022年には、国際送金に関するISO 20022への移行開始と、トランザクションマネジメント機能を備えた基盤の立ち上げという非常に重要なマイルストーンが控えています。これらは、顧客エクスペリエンスの大幅な向上と自動化及びイノベーションを実現するための重要なポイント

となります。ISO 20022への移行は、業界全体が複数年をかけて実施する作業であり、SWIFTはその支援に尽力いたします。

また、イノベーションはこれまで以上にSWIFTの活動の重点となっていきます。そこで、本ニュースレターでは特に重要なイノベーションに関する2つのイニシアティブをご紹介します。一つ目は、SWIFT接続をパブリッククラウド経由で可能にするサービスです。二つ目は、デジタル通貨を使用した国際送金を可能にするCBDC(中央銀行デジタル通貨)基盤の相互接続に関する最新の実験に関するものです。

今年は10年以上にわたってコミュニティを支えてきた日本のSWIFTナショナルメンバーグループチェアパーソンの川越洋氏が退任される年でもあります。長年の同氏のご協力に深く感謝申し上げます。今後、後任の岸道信氏をお迎えする前に、川越氏より最後に皆様へのメッセージをご案内いたします。

最後に、過去2年オンラインで開催したSibosは、今年はアムステルダムでの現地開催を予定しております。今年はオンラインと現地参加をご選択いただける、史上初のハイブリッドSibosとなります。多くの皆様とお会いできることを楽しみにしています。

Get ready for ISO 20022 for CBPR+

CBPR+(Cross Border Payment and Reporting Plus)のガイドラインに沿ったISO 20022の導入準備。2022年11月から始まる移行期間に向けた対応を、確実に行っていただくために。

2022年11月から、全てのユーザーは国際送金の際にSWIFTネットワーク上でISO 20022規格のCBPR+メッセージ送信の利用を開始することができます。

ISO 20022メッセージを受信するためには、ISO 20022メッセージをそのまま処理するか、受領電文の変換サービスによって内包されたMT電文の処理が必要となります。本年中にISO 20022を導入しない場合でも、2022年11月からの共存期間の開始にあたって必要な対応があります。そのため、今すぐ準備を開始し、テストを完了することが円滑な移行に不可欠です。

準備すべきこと

準備のために必要な手順として、SWIFTインターフェースの更新、FINPlusサービスへの接続、FINPlus用のRelationship Management Authorization (RMA)の準備をはじめ、十分なテストが必要となります。

これらの準備に不備がある場合、コルレス行からの送金指図が適切に処理できなくなるなど、業務に支障が生じる恐れがあります。

SWIFTのサポート

SWIFTコミュニティは2018年に国際送金にISO 20022を採用することを決定し、より構造化された豊富な情報を活用するというメリットを追求することとしました。

SWIFTは円滑な移行を支援するため、swift.com上にISO 20022プログラムを用意し、CBPR+用ISO 20022関連のあらゆる情報と必要な対応に関する説明を [Get ready for ISO 20022 for CBPR+](#)のページに掲載しています。

準備に必要な手順

テスト環境の構築

はじめに、テスト用のシステム環境をご準備ください。手順は以下の通りです。

- **テスト用インターフェースのアップグレード:** インターフェースをマルチフォーマットMXメッセージに対応するバージョンに更新してください。
- **インターフェースの設定とテスト環境への接続:** テスト環境のFINplusサービスに接続できるようにインターフェースを設定してください。
- **テスト実施 (セルフテスト又はSWIFTとのテスト):** テストを行い、プレーンまたはマルチフォーマットのISO 20022メッセージを処理できるかどうか検証してください。

本番環境の構築

本番運用に移行するためには以下の対応が必須です。

- **本番用インターフェースのアップグレード:**

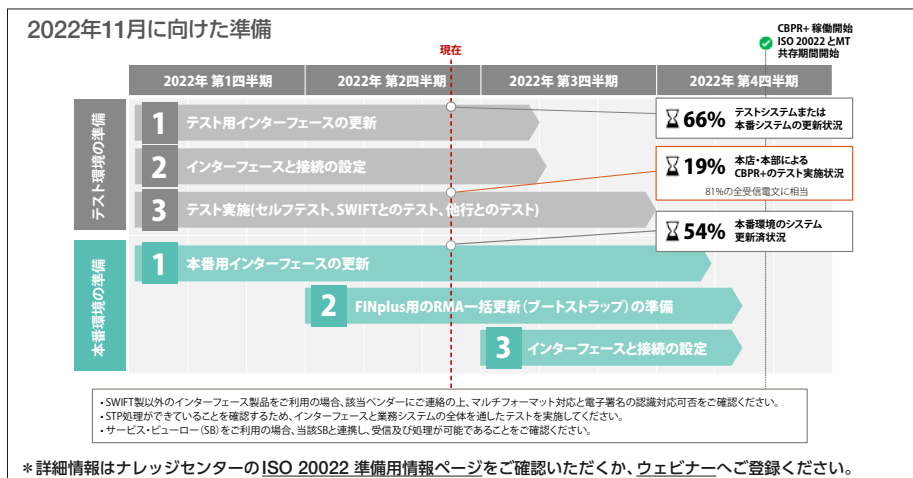
インターフェースをマルチフォーマットMXメッセージに対応するバージョンに更新してください。

- **FINplus用RMAの一括更新(ブートストラップ):** SWIFTインターフェース上にRMAのブートストラップで作成された同期用ファイルをインポートしてください。
- **本番用インターフェースと接続の設定:** 本番環境のFINplusサービスに接続できるようにインターフェースを設定してください。

その他詳細情報について

そのほか、詳細情報については [Get ready for ISO 20022 for CBPR+](#) をご確認ください。

本サイトには前述の手順に関する詳細情報や手順の説明、主要ドキュメントの概要とISOのサービスガイド及びISO 20022に関する最新情報へのリンクを掲載しています。ユーザーの皆様へのSWIFT接続形態にあわせたウェビナーもご用意しておりますので、インターフェースの更新をはじめ、早期にテストを開始できるようにご準備ください。



Message from Mr. Hiroshi Kawagoe, the Chairperson of SWIFT National Member Group in Japan

～ 川越洋様の日本SWIFTナショナルメンバーグループ チェアパーソンご退任に寄せて～

株式会社こたら 代表取締役社長 川越 洋 様

日本SWIFTナショナルメンバーグループ チェアパーソン (2011年～2022年6月)



略歴:30年を超える三井住友銀行でのキャリアの大半で決済業務に従事し、2021年7月より現職。2011年から2022年6月まで日本SWIFTナショナルメンバーグループのチェアパーソンを務めた。

2011年からナショナルメンバーグループ チェアパーソンとして、長年にわたって日本のSWIFTコミュニティに多大な貢献を果たしてこられた川越様に、ご退任に寄せてこれまでの11年を振り返っていただきました。

ナショナルメンバーグループ チェアパーソンの 在任期間中の最も印象深い出来事は何ですか。

一番記憶に残っているのは、2012年秋の大阪で開催されたSibosです。Sibos前日の日曜日に開催されるチェアパーソン会議では、ホスト国チェアパーソンとして、オープニングアドレスをさせていただきました。長い一週間、様々なイベントを乗り切り、最終日のグラミン銀行のユヌス氏によるクロージングのスピーチ後、スタンディングオベーションに包まれている中、やり切った充実感や無事終わった安堵感で10分以上放心状態となり、椅子から立ち上がれずにいたことを今でも鮮明に覚えています。

大阪へのSibos招致活動は、チェアパーソン就任前の2007年からはじめて、足掛け5年を要

した取り組みでした。日本ではじめての開催であっただけでなく、東日本大震災の翌年、最初の大規模国際会議であったこともあり、いろいろな課題に直面しましたが、府や市・地元財界・SWIFTチームなど、たくさんの関係者にご支援をいただき、ひとつひとつ乗り越えていきました。おそらくSibos大阪で得た知見は、現在準備が進んでいる大阪万博などにも生かされていることと思います。

チェアパーソンとしてSWIFTとの関わる中で どのようなことが得られましたか。

所属する会社や組織の壁を越えて、関係者が協力して課題に立ち向かっていく、国境や言語の壁を越えて、円滑なコミュニケーションのための手順(スタンダーズ)を整える。そういった取り組みの意義や重要性、結果として得られる果実の大きさなどについて、SWIFTの仕事を通じて実感するたくさんの機会をいただきました。また、いろいろなワークショップやワーキンググループへの参加を通じて得た、内外のエキスパートの方々とのたくさんのつながりも貴重な財産です。

こたら社長としての目標を教えてください。

「こたら」プロジェクトでは、「みんなをつなぐ」を合言葉に、携帯番号を使った利便性の高いインスタントペイメントのインフラ構築を目指しています。わが国の多様な決済サービスをつなぎ、コロナ禍で物理的に離れてしまった人と人をつなぎます。少額送金サービスを通じて、少しでもそのお手伝いができればと思います。SWIFTでの経験は、「こたら」での仕事にも大いに役立っています。

10年後の決済の在り方はどのようになっている と思いますか。

ペイメントや決済は、世の中のあらゆる経済活動の裏側にならずあるものです。経済活動の

変化に応じて、決済もそのかたちを変化させてきました。スマートフォンが世界中で使われるようになって、インスタントペイメントも世界中で拡大、日本でも「こたら」が必要になりました。10年後の決済がどうなっているのかを正確に予測するのは難しいものの、社会の変化スピードは、一段と加速しています。決済も社会の変化スピードにあわせて、しなやかに変化することが求められているのは事実です。

日本の金融業界は今後どのようなようになっていく と思いますか。

現在、日本やわが国金融界は、それぞれ様々な課題を抱えているのは事実ですが、悲観的になる必要はないと考えています。大阪でのユヌス氏のスピーチでは、コンテクストは若干違いますが、「The deeper the crisis, the bigger the opportunity」(危機が深ければ、機会も大きい)という発言もありました。残念ながら、地政学リスクによる分断を象徴するような出来事として、SWIFT切断が報道されていますが、壁を越えて協力することで発揮される、「つながる」ちからを信じて、乗り越えていきたいと思っています。

SWIFTはこの場をお借りして、この11年の間、川越様がナショナルメンバーグループのチェアパーソンとしてSWIFTと日本のSWIFTコミュニティのためにご尽力いただいたことに深く感謝申し上げます。日本におけるSWIFTの発展と金融界へのイニシアチブ浸透のための継続的なご努力とご支援は他に比類がなく、特に大阪でのSibos開催とチェアパーソン会議での多大なるご貢献は強く関係者の心に残っております。今後の株式会社こたらの代表取締役社長としてのご成功と、ご自身とご家族のご多幸をお祈り申し上げます。

Payment Pre-Validation

～ フリクションレスかつインスタントなクロスボーダー送金の実現に向けて ～

前回 (Vol.4 December, 2021) の SWIFT News では本年2022年11月から開始されます ISO20022の対応に伴い、リッチで構造化されたデータ量の多いMX電文を用いて送金業務を行うにあたっては、マニュアル化から自動化へ、紙ベースからデジタルベースへの変革が必要とされる点について述べました。そしてこの自動化・デジタル化の変革において、Pre-Validation (事前検証) や、Transaction Screening といった SWIFT の API サービスが、より精度の高いMX電文の組成に貢献できる点をご案内致しました。

●
本 SWIFT News では、Pre-Validation (事前検証) に焦点を当て、本サービスがどのように送金業務の課題を解決し、SWIFT コミュニティの皆様にもメリットをもたらすことができるのかについて述べたいと思います。

現在のクロスボーダー送金における課題

SWIFT のネットワーク上で取引される送金電文のうち約5%がその電文に含まれるデータに何らかの問題があり、受信金融機関において STP 処理や通常の業務手順で処理ができない状況になっています。そして、そのうちの約3分の2について電文フォーマットの誤りが原因となっており、そのための確認や修正作業にかかるコストは年間約20億ユーロにも上っているとのデータもあります。これは金融機関における事務処理の負担だけでなく、追加の手数料、送金完了までにかかる時間の延長と顧客エクスペリエンスの低下につながります。

この現状の課題を改善し、よりフリクションレスでインスタントなクロスボーダー送金の実現に向け、SWIFT は昨年2021年より、送金電文のデータを実際の発信前に「事前検証」すること

を可能とする Payment Pre-Validation のサービスの提供を開始し致しました。

Payment Pre-Validationにより得られる効果

Payment Pre-validation によって事前検証できる内容としては、大きく1) Beneficiary Account Verification, 2) Payment Validation, 3) Fee Prediction の3つのカテゴリがあります。1点目の Beneficiary Account Verification は送金電文で指定された受益人口座が正しく存在していること、その口座のステータスを事前検証するものです。2点目の Payment Validation は、BIC を含む金融機関ID、口座番号体系、国ごとに定められている送金目的コードなど、送金に必須なデータ項目についてその正確性や適切性を SWIFT のセントラルデータベースの内容に照らし合わせて検証を行います。3点目の Fee Prediction は送金チェーンにおける各金融機関で発生する手数料を事前に可視化するサービスとなり、現在はまだサービス稼働していませんが、今後の Payment pre-validation の一つのロードマップとなっております。

Payment Pre-Validation は API ベースのサービスとなっており、その仕様は標準化された Open API (OAS3.0) にもとづいています。ネットワークとしては SWIFT 専用の MV-SIPN ないし、Internet 経由でも利用が可能ですので、どの金融機関様におかれてもご利用が可能です。

クロスボーダー送金をワン・ストップ・サービスとして提供するために

～国際送金の高速化に向けた関連システムの簡素化とAPIの活用～

SWIFT は今回ご紹介した Payment Pre-Validation の他にも、API を活用して gpi, TSS, SWIFT GO といったサービスを通してクロスボーダー送金の時間短縮・簡素化・低コストを目指しています。ISO20022化も国際送金におけるデータの質を高めるうえでこの一助となります。また、SWIFT は API 化に力を入れており、国際送金のみならず種々のビジネスラインにおいて SWIFT とお客様の業務システム間での API 連動を推進しております。この具体的な実現にあたっては、顧客からの送金指図の受付から電文組成、AML チェックや行内システム (勘定系・情報系) との連携、また SWIFT のサービスとの API 連動が単一のプラットフォームでできることが理想です。SWIFT Japan ではまさに今、このようなプラットフォームの提供を目指されている IT ベンダー様と協業し、またいくつかの金融機関様に PoC (Proof of Concept) のご協力をいただきながら、サービス開始に向けて準備を進めておりますので、ご興味をもっただけでしたら担当アカウントマネージャまでご連絡いただけますようお願い申し上げます。

700+ million

Payment Transactions per year

5.2%

Transactions encounter friction

65%

Friction root causes addressable by Pre-validation

2B EUR

Yearly cost of friction of the industry



Customers

Reducing friction would improve customer experience

SWIFT Go

Predictable, fast and easy low-value cross-border payments

～ SWIFT Goによる小口国際送金の簡素化 ～

国際送金は我々の日々の経済活動に欠かせないものです。

企業活動においては、原材料や商品を世界の各地から調達するために必要であり、個人のレベルでは遠く離れた家族への送金などに使用されています。

これらの送金は迅速かつ透明性が高く、摩擦（エラーや手戻り）がないことが常に求められます。近年この分野ではユーザーエクスペリエンスを大幅に改善する重要な進化が見られました。そして今、SWIFTは世界中の銀行コミュニティと協業し、中小企業や消費者に向けてより充実したサービスを提供するためにさらなる進化を遂げようとしています。

中小企業および個人のニーズを満たす取組み

中小企業や個人が行う送金は多くの場合少額ですが、取引頻度は比較的高い傾向にあり、そのため、いくつかの課題に直面しています。例えば、高い送金手数料や入金完了までに要する時間が長いこと、また、手数料や送金完了までの所要時間が不透明で送金先が期待通りの金額を受け取れるかどうか保証がない場合もあります。その結果、中小企業はグローバル化した経済状況において、競争力を維持する

ことに困難を感じ、個人レベルでは着金の遅れやサービスへの不満に繋がります。

SWIFT Go小口国際送金の変革

これらの課題に対応するために、SWIFTのコミュニティはグローバル規模で小口国際送金の新たな取り組みであるSWIFT Goを開始しました。SWIFT Goは、中小企業や個人の国際送金を、予測可能で迅速、安全な送金を価格競争力のある手数料水準で、銀行口座を使って世界のどこにいても送金できるようにするための取り組みです。

2021年7月のサービス開始以来SWIFT Goの導入は急速に広まり、現在120以上の銀行が契約を完了、11銀行が本番稼働済です。1年間に4,180万件相当の小口国際送金がSWIFT Goで行われています。2022年にはさらに多くの銀行が参加する見込みです。

SWIFT Goの特徴は次の通りです：

- **予測可能で透明性の高い決済** 中小企業にとっては、受益人へ実際にいくら入金されるか、いつ口座に入金されるかといった全ての資金に関する情報の可視化が可能になることで、流動性と運転資本の効率的な管理ができるようになります。中小企業の仕入れ先にとってはより高度な予測可能性が容易な資金管理をもたらす、結果として商業的与信枠の効率的な運用が可能になります。
- **迅速な決済** 迅速な決済は中小企業に商流の効率化と競争力をもたらします。消費者にとっては生活費のための資金の受取りがより早くなるというメリットが考えられます。SWIFT Goの厳格なサービスレベルの適用、可能なマーケットでは即時決

済システムの利用、そして銀行間でのさらなる自動化により、迅速な決済が可能になります。

- **コスト効率のよい決済** SWIFT Goは送金コストを大幅に削減することが可能です。送金金額のしきい値と事前に合意された取り扱い手数料によって、価格競争力のある小口国際送金の枠組みを提供します。
- **便利でシンプルな仕組み** SWIFT Goと銀行の顧客向けチャネルを統合することにより、スマホアプリなどの送金機能を利用してシンプルな操作で小口国際送金を完了することが可能になります。
- **安全な決済** 企業にとっても個人にとっても送金が安全に処理されることが重要なのは言うまでもありません。SWIFT Goの決済は、SWIFTネットワークの強固なセキュリティと信頼性に支えられています。SWIFT Goの利用により、顧客は信頼する取引銀行やそのチャネルを通じて、予測可能性、スピード、利便性および安全性を備えた国際送金が利用可能になります。

詳しくはswift.com/goをご参照ください。

New Experiments

pave way for international payments using CBDCs

～CBDCによる新たな国際送金の実現へ～

SWIFTは、キャップジェミニとともに各国の中央銀行デジタル通貨(Central Bank Digital Currencies、以下CBDC)を相互にリンクし、シームレスなデジタル通貨の国際送金を実現させるために、次の段階に進むべく新たな実証実験を行っています。

近年、CBDCへの関心は非常に高まっています。国際決済銀行(Bank for International Settlements)の最新のレポートによると、現在、世界の中央銀行10行のうち9行がCBDCを研究しており、それらがカバーする関連国の経済規模を合わせると全世界のGDPの90%以上を占めます。

また、ナイジェリアやパナマをはじめとし、CBDCの採用を進める国も増え、自国デジタル通貨の利用が現実のものとなっています。



ローカルからグローバルへ

現在、CBDCに関して、各国の政策目標の達成においてどのように役立つかという点に主に焦点が当てられていますが、国をまたぐ利用も重要なポイントになります。



CBDCの潜在的価値を十分に発揮させるには、世界中で開発されているさまざまなCBDC間の

相互運用性とリンクを促進することが重要です。今日、世界規模で展開するCBDCを取り巻くエコシステムでは、さまざまなテクノロジー、標準、プロトコルに基づいて独自のデジタ

ル通貨が開発されているため、断片化するリスクがあります。

SWIFT チーフ・イノベーション・オフィサー
トム・ズジャック(Thomas Zschach)

SWIFTのイノベーション部門長のニック・ケリガン(Nick Kerigan)はさらに次のように述べています。

「現在の状況を放置すれば、仕様の断片化によって世界中にそれぞれ孤立した、いわゆる『デジタルアイランド』が出現するかもしれません。複数のシステムとCBDCを効率的に連携させないと、企業や消費者のCBDCを使用した摩擦のない国際送金の実現の妨げになりかねません。」

SWIFTは2021年に最初のCBDCに関する実験を行い、分散型台帳技術(DLT)に基づくCBDCを使う金融機関と別の即時グロス決済(Real-Time Gross Settlement, RTGS)システムを利用する金融機関の間において国際送金取引が正常に機能することを実証しました。

現在、実験は次のレベルに進んでおり、キャップジェミニとの協業により、SWIFTが複数のローカルCBDCのネットワークを相互に結び、CBDCによるシームレスで摩擦のない国際送金ができるよう検証を行っています。



中央集中型のテクノロジーを排除して検討を進めたところ、幅広いテクノロジーの選択、運用モデル、およびポリシーなどを考

慮する必要があり、解決すべき点が複雑になっています。当社が分析する際に用いる明確に定義された手法は、SWIFTとのCBDC相互リンクの構築を加速するのに役立ちます。当社は、業界標準とフレームワークの構築において、SWIFTと継続的に協業できることを楽しみにしています。

キャップジェミニ 金融サービス 最高技術責任者
スディール・パイ(Sudhir Pai)氏

接続性に関する課題の解決

CBDCの採用を広げるにあたり、さまざまな障壁を取り除く必要があります。SWIFTのイノベーション推進部長であるニック・ケリガンは次のように述べています。

「大きな可能性を持つCBDCは、その幅広い採用のためにいくつかの課題を解決する必要があります。その一つが、既存の決済システムと並行して、複数のCBDC基盤の開発が同時に進んでいることです。CBDCによって決済機能が改善する可能性はありますが、従来の決済インフラや手順に替わるものではなく、CBDCと既存の決済基盤は当面共存していく必要があると考えます。」

CBDCの登場により、既存決済システムとどう共存させていくかという問いが生まれました。全てのCBDCが同じテクノロジーを採用しているわけではありません。例えば、ある国のCBDCの基盤は集中型のデザインに基づいている一方、他国のCBDCでは分散型台帳技術(DLT)を使っています。さまざまな通貨が異なる決済システムで使われているように、CBDCにも同じことが当てはまります。

New Experiments pave way for international payments using CBDCs

トム・ズシャックはさらに次のように述べています。

「CBDCによる決済がスムーズに処理され、摩擦のないものにするためには、これら全ての観点から相互運用を可能にする必要があります。」

コラボレーションによる解決策を

国際送金の標準化と最適化を達成した経験を活かし、この相互運用の課題を解決するために、SWIFTはその役割を模索しています。2021年の実験では、既存のメッセージング機能を介して通信する銀行を使い、CBDCと既存決済システムとの相互運用を実証しました。

今回のキャップジェミニとの実験は、それを更に一歩進めたものとなります。SWIFTのネットワークを経由して、テクノロジーの規格にとられることなく、既存の決済システムと異なるCBDC基盤との相互接続性をテストしています。CBDCと国際送金を統合し、拡張性を高め、実現しやすいソリューションを提供できるよう研究を進めています。

これらの実験では、国内CBDCのネットワークにおいてゲートウェイを構築します。そのゲートウェイがネットワーク上のクロスボーダー取引を検知し、変換を行い、さらにSWIFTの基盤を通じて別のCBDCのネットワークまたは決済システムに繋げるという形をとっています。

この実証実験では、さまざまなCBDCの相互接続の要件にも対応します。また、ISO 20022やSWIFTの公開鍵基盤など既存のメッセージング標準と認証モデルを再利用します。200を超える国と地域において、11,000以上の金融機関や事業法人から成るSWIFTのコミュニティ全体でソリューションを活用できるよう

にすることを目指しています。

キャップジェミニの分散型金融部門開発責任者であるリシャブ・シャー (Rishabh Shah) 氏は次のように述べています。

「今回のプロジェクトでは、当社が決済に関する深い専門知識と、多額の投資を伴うCBDCに関連したイノベーションを組み合わせています。SWIFTとの協業により、CBDCが従来の決済方法と共存しながら世界中のすべての利用者が容易に参加できる仕組みの構築を目指しています。」

同じくキャップジェミニのカード・ペイメントのグローバルヘッドであるイェルーン・ホーシャ (Jeroen Holscher) 氏は次のように述べています。

「私たちは、将来の決済方法をSWIFTと共同設計し、その過程でCBDCの更なる可能性を確認できることをうれしく思います。この協力的なアプローチは、現在のサービスとの融合によって、一層付加価値の高いサービスの提供を実現させるでしょう。」

実験の結果について

今回の取組みは、CBDCのネットワークを活用し、国際送金への対応を迅速かつ高い拡張性を持って対応できる可能性があることを示しています。また、今回の実験は技術的にSWIFTがどのような基盤においても(今回の実験はCordaとQuorumを基盤として利用しています)、効率的運用を可能にすることが確認されています。キャップジェミニとの協業では、CBDC間、CBDCと既存の法定通貨間のどちらも対象としています。



本実験が成功すれば、SWIFTがさまざまなネットワークを相互リンクさせる機能と技術要素を

備えていることが実証されます。これは、CBDCが直面している巨大な技術的な課題と業界におけるビジネス的な課題の解決に役立つものと考えます。また、その技術は中央銀行が独自のCBDCネットワークをクロスボーダー決済に対応させることを支援できるようになると考えています。

SWIFT イノベーション部門長
ニック・ケリガン

上記実験は既に進行中であり、その結果はまもなくコミュニティに公開される予定です。また、CBDCを超えて、他のデジタル資産と通貨が開発され、グローバルで規制されるようになった際に、それらの相互運用性を実現する方法についても検討していきます。

Making Public Cloud connectivity a reality

～ パブリッククラウドによる接続を現実のものに ～

SWIFTはAmazon Web Services(AWS)、Google CloudおよびMicrosoft Azureと提携して、SWIFTのコミュニティがより高い柔軟性を備えたSWIFTのネットワークやアプリケーションへの接続オプションを提供します。SWIFTコミュニティのみならずにより簡単にSWIFTネットワークに接続し、アプリケーションをご利用いただくために、パブリッククラウド経由での接続を可能にしました。

AWS、Google Cloud、Microsoft Azureの3つの主要なクラウドプロバイダーを用いることにより、金融機関はメッセージングサービスへ効率的に接続することができます。

また、強固なレジリエンスとセキュリティを確保しながら、新たなイノベーションを促進する機会にもつながります。



より簡単な接続方法

SWIFTユーザーがパブリッククラウドを使用することで、自社データセンターにおいて専用のハードウェアを運用する必要がなくなります。代わりに、Alliance Connect Virtual (ご指定のパブリッククラウドサービスプロバイダーとのSWIFT VPN 接続を展開できる新たなオプション) を介して接続することが可能になります。

この動きは、「世界中で場所を問わずインスタントかつ摩擦のない国際送金を可能にする」というSWIFTのミッションを成功させる鍵となります。SWIFTはこれまでもユーザーのクラウド戦略を常に支援してまいりました。コミュニティがこの機会を最大限に活用していただけることを期待しています。

SWIFTのチーフ・プロダクト・オフィサーであるステファン・ジルダダール (Stephen Gilderdale) は、次のように述べています。



クラウド技術は、過去10年間で金融業界において状況を大きく変革させる要素と

なってきました。今後も変革を続け、お金の形や流れを変える重要な存在となるでしょう。コミュニティが世界中のSWIFTネットワークにより簡単かつ安全にアクセスし、パブリッククラウドを活用した利便性を活用できるようにすることを誇りに思います。

新たな機会の活用

パブリッククラウドへの移行は、セキュリティや可用性を担保したままコスト削減、対応の高速化、自動化の改善、コンプライアンス対策の合理化等、金融機関に大きなメリットをもたらすことが期待されます。

SWIFTはCustomer Security Programme (CSP)への準拠を確実にするために、各クラウドプロバイダーと念入りに議論をし、サイバーセキュリティ対策水準の引き上げ、サイバー攻撃に対する防御策の強化およびより広範な金融ネットワークでの全体の整合性を保てるよう準備してきました。

早期導入には、新規デジタル銀行からグローバル規模の金融機関まで幅広い機関の参加

があり、現在テストの最終段階にあります。Alliance Connect Virtualは2022年後半に一般提供を開始する予定です。クラウドによる接続にご関心をお持ちいただける金融機関の皆様におかれましては前向きなご検討をお願いします。

Solving the post-trade transparency challenge

～ 証券ポストトレード領域における透明性向上への挑戦 ～

証券取引を一意に表す識別子であるユニーク・トランザクション・アイデンティファイヤー (UTI) は決済処理のフェイルを防ぎ、証券決済に関わるコスト及びリスクの軽減と、顧客エクスペリエンスの向上に役立ちます。

今日、荷物やピザの配達に至るまで、注文された品物のほとんどは追跡が可能となっています。その透明性が、想定外の事態を防ぎ、迅速な問題の検知・対応を可能にし、確実に配送されるという安心感を与えています。

同様に、証券取引の透明性が証券市場で実現したらどのような未来が描けるでしょうか？ 現在、証券決済には証券取引のライフサイクルに関与する複数の金融機関間で取引を一意に識別して追跡する方法はありません。その結果、証券を取り扱う金融機関は、決済チェーンの特定の時点でのステータスが把握できず、より迅速な問題解決やフェイル防止ができないために重大なコストとリスクに直面しています。



資料ダウンロード: 証券ポストトレードにおける透明性向上への挑戦—取引を一意に表すユニーク・トランザクション・アイデンティファイヤー (UTI) の利用

決済フェイルによるコスト上昇

2020年に欧州証券市場監督局 (ESMA) によって発表された欧州31か国を対象にした調査で、株式売買決済の平均5~10%がフェイルとなり、債券取引の平均2~4%がフェイルとなったことを報告しています。これを世界の業界レベルでのフェイル状況と比較して、大したことはないと思われるかもしれませんが、運用コストと手数料は全体で数十億ドルにもなります。

透明性のあるサービスに対するユーザーの期待が高まり、複雑で相互接続された市場全体で運用のレジリエンスを向上させることが世界的に求められており、業界にはポストトレードの透明性を実現するための「標準」が必要です。

ユニーク・トランザクション・アイデンティファイヤー (UTI)

SWIFTはパートナー企業と協力して、証券決済のデジタル変革を推進し、証券決済における未来への道のりを描いていきます。これは、証券集中保管機関規制 (CSDR) に基づく今後の決済制度と、決済サイクルのT+1化を目指す市場イニシアチブによってさらに加速されています。

SWIFTが作成したディスカッションペーパーである「ポストトレードでの透明性の課題と解決—証券におけるユニーク・トランザクション・アイデンティファイヤー (UTI) の事例」では、業界レベルでポストトレードにおける透明性を実現するためにこれまでに実施した事例に焦点を当てています。

また、既存のISO 23897:2020に基づくユニーク・トランザクション・アイデンティファイヤー (UTI) を業界全体で採用するためのロードマップも示しています。これにより、市場参加者は、

取引ライフサイクルの全体において証券取引をエンドツーエンドで追跡できます。

得られるメリット

SWIFTは金融機関のワーキンググループや業界団体と協力し、UTIに関わる課題と可能性を検討してきました。

金融機関による初期投資は必須となりますが、以下のような重要なメリットも想定しています。

- 取引先との調査を必要とする決済前照合と決済タイミングの例外処理の件数を**50%削減**
- 照合または決済タイミングに関するフェイルを**90%削減**

調査とフェイルの削減に伴うコスト削減に加え、UTIを業界で採用することのメリットとして、運用リスクの削減、ポストトレードのライフサイクル全体における透明性の向上、クライアントサービスの向上、業界のデジタルトランスフォーメーションの後押しなどが挙げられます。

業界の変革を可能に

UTIは、証券業界の変革を可能にする重要な要素となる可能性があります。SWIFTコミュニティでは、ポストトレードの決済と照合というバリューチェーン全体において透明性と効率性を向上させる機会を探求し、活用してまいります。

進行中の関連する取り組みとUTIがもたらしうるメリットの詳細については、[こちら](#)をご確認ください。

「製本版 BIC ディレクトリー廃止」のお知らせ

昨年10月にご案内の通り、SWIFTは環境負荷軽減を目的に、製本版BIC ディレクトリーの発行を2022年10月版をもって終了することを決定いたしました。

対象サービス	製本版BIC ディレクトリー
推奨される対応策	<p>現在ご利用いただいている製本版BIC ディレクトリーのご契約は2022年12月をもって自動解約となります。継続してBIC データ情報の利用をご希望のお客様へは、以下の主なサービスを含む複数のオプションをご用意しております：</p> <ul style="list-style-type: none">● SWIFTRef's Bankers World Online – Reach (SWIFTRef 製品のうち、バンカーズ・ワールド・オンラインのリーチモジュール) このオンラインツールでは、BIC、国内ルーティングコード、SSI、IBAN 検証等あらゆる資金決済関連データや機能を提供しています。● SWIFTRef's BIC Plus Directory (SWIFTRef 製品のうち、BIC Plus ディレクトリー) このデータファイルサービスでは、BIC、その接続状況、BICの過去の推移等のデータを提供しています。
最終出版月	2022年10月
サポート	<ul style="list-style-type: none">● 移行されるユーザー様向けに特別な費用調整をご用意しております。● その他のすべてのオプションの詳細に関しましては、担当アカウントマネージャーまでお問い合わせください。

About SWIFT

SWIFTは協同組合組織であり、世界中のほぼすべての国と地域において、金融業界全体で11,000を超える組織にセキュアな金融メッセージサービスを提供しています。50年近くにわたり、絶えず変化する情勢の中、進化を続けることで、確実性、継続性、優位性を提供してきました。急速に環境が変化する今日、以前にも増してつながりが拡大し、取り組むべき課題の多いこの世界において、SWIFTのアプローチは、重要度を増しています。詳細については、SWIFTアカウント担当にお問い合わせいただくか、www.swift.comをご覧ください。

スイフト・ジャパン株式会社 (SWIFT JAPAN LTD.)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命丸の内ビル 20階

電話：03-5223-7400 (代表) FAX: 03-5223-7439

日本語対応： 平日9時～17時30分 (日本の銀行休業日を除く)

英語対応： 年中無休 24時間

*日本のサポート時間外は香港、欧州、または米国のサポートセンターに自動転送されます。